

千葉県立中央博物館 機能強化実施方策

令和5年3月

本方策の位置づけ

- 本方策は、令和2年9月に策定された「千葉県立博物館の今後の在り方」に基づき、千葉県立中央博物館の機能強化を図り、魅力を向上させるための方策をまとめるものである。
- 目次
 1. 中央博物館の基本目標とその実現に必要な機能
 2. 管理運営と施設整備の考え方
 3. 今後のスケジュール

1 中央博物館の基本目標とその実現に必要な機能

中央博物館の基本目標

「知の創造」拠点、県内の博物館活動の拠点としての役割を強化する。

目標達成に必要な博物館機能

(1) 総合博物館としての高度化

・全県的な自然系・人文系資料を対象とし、両者の融合による調査・研究を進め、海の博物館を含めた「総合博物館」としての完成を図る。

● 調査・研究

- ・これまで主体としていた自然系に加え、人文系の学芸員と資料の集約による収集保管・展示機能の強化。
- ・自然系と人文系との融合による研究機能の強化。
- ・研究成果の発信・還元機能の強化。

● 展示

- ・自然系・人文系のバランスのとれた総合展示としてのリニューアル。
- ・中長期的な更新計画の策定と柔軟な什器の整備。
- ・デジタルミュージアムの充実。

(2) 地域連携ステーション

・博物館（県立、市町村立、私立）と地域（市民、大学、企業等）をつなぐハブ機能としての役割を果たす。

● 展示

- ・収蔵資料の巡回展示や資料貸出の強化。

● 教育・普及

- ・学校や社会教育施設等との連携。
- ・県民や企業等との連携・協力体制の構築。

● 支援

- ・市町村立博物館等の支援。

(3) アーカイブセンター

・全県立館の博物館資料を一元的に管理し、高い防災機能を備えるとともに、被災資料救出の拠点としての役割を果たす。

● 調査・研究

- ・レファレンスサービスの強化。

● 収集・保管

- ・県域を俯瞰した収蔵資料の一元管理。
- ・防災機能の高い収蔵庫の充実。
- ・デジタル・アーカイブの強化。
- ・被災施設資料の救済能力の向上。

● 支援

- ・非常時における博物館の被害状況の情報収集・資料の救済
- ・資料管理や保存手法等の情報共有

2 管理運営と施設整備の考え方

(1) 管理運営

大項目	取組	説明
運営形態	直営を維持	県内の博物館活動の拠点として、高度な調査・学術研究、市町村立博物館等の支援、人材育成、大学、企業との幅広い連携を推進していく必要がある。また、専門職員の育成を長期的な視点から継続させていく必要がある。これらの状況に鑑みて、今後も県直営を継続していく。
人事	専門職員の育成	長期的視点で専門分野間のバランスを考慮した育成を行い、調査・研究機能を強化し、研究成果の発信・還元機能の充実を図る。
	外部専門人材の活用	長期的視点での専門職員の育成と並行して、職員の年齢構成の是正が図られるまでの間、経験者採用や外部委託など、外部専門人材の活用を進める。
組織	機能別組織	県内の博物館活動の拠点としての機能を十分果たすため、自然科学・人文科学等の学問領域の垣根を越えて、博物館の基本的機能を担う組織に再編成する。
事業予算	計画的な予算確保	学芸員の研究に基づく企画展の開催には数か年を要することから、運営計画を踏まえた予算の確保や年間展示予算の定額化などにより、中長期的な計画に基づいた予算の確保を図る。
民間連携等	企業・大学等との連携	共同研究や実証実験に積極的に参加するなど、官民協働を推進する。
	県民との連携	県民や地域、団体との長期的な協働により、「県民の博物館」を目指す。
	MLA連携	新中央図書館、文書館と同エリアに集約設置されることの相乗効果を出す。

大項目	取組	説明
常設展示室	人文科学系を充実させ自然科学と合わせた総合展示としてリニューアル	これまで地域館に分散していた人文系展示を集約することで、本県の自然、歴史、文化にワンストップで触れることができる。
	可変性・柔軟性があり、最新技術を活用した展示	10年程度の将来を見据えた展示計画の見直しに対応でき、時事的な話題を紹介できる什器や展示構成とするとともに、新技術にキャッチアップできるよう、大学や企業との連携による展示の更新を図る。
	業界標準への対応	技術面の課題を検討し、国宝など高いレベルの展示に対応可能な機能を有した展示室にリニューアルする。
企画展示室	レイアウトの見直し	事実上、第1、第2に分かれているレイアウトを見直し、来館者目線でレイアウトをリニューアルする。
	業界標準への対応	技術面の課題を検討し、国宝など高いレベルの展示に対応可能な機能を有した展示室にリニューアルする。
収蔵庫	防災機能の高い収蔵庫	激甚化する自然災害から収蔵品を守るとともに、被災施設の資料を一時保管するなど、県内の博物館資料救済ネットワークの拠点としての機能を有する。
	集約資料等、将来を見据えた保管スペースの確保	地域館から集約する人文系資料や、被災施設の資料を一時的に保管するスペースなど、将来を見据えた保管スペースを確保する。
	恒温恒湿機能	様々な素材からなる博物館資料を適切に保管する複数の恒温恒湿機能を有する。
	総合的有害生物管理への対応	文化財害虫の侵入を許さない密閉機能を有する。
	不活性ガスによる消火機能	貴重な収蔵品を火災から守る消火機能を有する。
	高いセキュリティ機能	貴重な収蔵品を盗難や破壊活動から保護する機能を有する。
その他	ショップ・レストランの魅力向上	展示を見る以外にも、憩いの場として県民が過ごすことができる場を目指す。
	閲覧スペースの整備	レファレンスサービス充実のための閲覧スペースを整備する。
	団体対応スペースの整備	学校連携やインバウンド対応等を進めるため、食事等の休憩ができるスペースを整備する。

3 今後のスケジュール

1. 基本計画（令和5年度）で検討する項目・内容

- 中央博物館リニューアル全体の基本理念
- 中央博物館の今後の事業活動計画（展示計画、地域連携等）
- 新収蔵庫棟計画（面積・機能の算出、候補地調査等）
- 本館棟展示リニューアル計画（基本的な考え方とコンセプトの検討）
- 事業手法の検討（PFIの検討等）
- 概算事業費の算出
- 事業スケジュールの検討

2. 必要な施設整備に向けた工程

- リニューアル基本計画策定
- （新収蔵庫）基本設計・実施設計、建築・外構工事
- （本館長寿命化）基本設計・実施設計、建築・外構工事
- （展示）リニューアル設計・工事
- リニューアルオープン